

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

はばたけ都田の子 ～元気・勇気・本気～
○学ぶ楽しさを知り、共に高めあう子を育てます。(知)
○自分も友だちも大好きな、あたたかい子を育てます。(徳)(公)(開)
○心と体を鍛え、健やかな子を育てます。(体)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する能力〉
〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉

具体化した資質・能力

・「思考力・判断力・表現力」の育成を授業研のテーマとして設定し、カリキュラム・マネジメントを通してテーマを意識した授業を展開する。
・ユニバーサルデザインの教室環境づくり、授業づくりを推進する。
・中学校ブロックの教務主任会や専任会などで得た情報を基に、小中連携、小小連携を強化し、授業参観、音楽会参加、部活動体験等、児童・生徒の交流を充実させる。

中期取組目標

子どもの元気・勇気・本気を生み出すカリキュラム・マネジメントの推進
○知的好奇心を持ち、思いや考えを表現しながら学び続ける子どもを育てながら、質の高い学びを目指します。
○他者への思いやりを持ち、互いの個性を認め合える子どもを育てます。
○GIGA端末をツールとして活用しながら、協働的に学ぶ子どもを育てます。
○感染症対策を講じながら行事等の見直しを行い、地域との新たなつながりを模索します。
○PDCAサイクルを生かしてカリキュラムを改善し、職員の働き方を考えながら、持続可能な学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (思考力育成) and 具体的取組 (①子どもが「本気」で思考する場面に焦点を当てた校内授業研究を一人一回行い、子どもが分かる楽しさや学ぶ楽しさを実感できるようにする。②「つながる学び」を意識した単元・題材・主題の構成を工夫する。③研究テーマに沿った専門的な指導を仰ぐ機会を適宜設定し、指導力の向上を目指す。)

学力向上に関わる本校の状況

○昨年度初めて市の平均を超えたが、学習への支援が必要である状況がある。
・理科・社会：ここ数年にわたり少しずつ向上が見られる。社会科では市の平均を超え、理科も市の平均までとわずかとところまで向上してきている。
・国語：特に基礎問題に課題があり、「読む」や「書く」で正答率が低い傾向がある。
→文章を構成していく力、思いに合わせた言葉を選ぶ語彙力の向上が必要である。
・算数：思考力を問う活用問題での正答率が低い傾向がある。
○学力分布をみると、C、D層が半数を超えている。D層の割合自体は減ってきている。
○学習意欲から見ると、全体としては変わらず意欲は保っている。その中でも社会や理科が高くなっている。
○令和3年度は、一人一回の校内研究授業を行い、授業力向上に努めた。
・教師が子どもに身に付けさせたい資質・能力を明確にもつことで、授業のめあてを子どもも把握することができ、問題解決的な学習につなげることができた。
→研究から、子どもの思考力向上に焦点を当てた研究を進めていく必要があることが共通理解された。

今年度の目標

「本気」で思考する子どもの姿を目指して
～つながる学びで子どもの変容を目指す～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○校内授業研究会を、全教員一人一回行う。
単元、題材、主題を通して、「本気」で思考する(させる)場面を考える。思いや考えを表現するためには、根拠となる思いや考えをもつことを大切に、という視点で研究を行う。以下の点について授業提案をもとに協議する。
①思考する場面が適切であったか。
②授業を通しての子どもの変容は見られたか。
・「つながり」を意識した研究となるように、協議会のメンバーを固定しないで行う。
・部会に分かれて意見交換をしながら、活発な協議を行うことができるようにする。
○講師を招いた理論研修を行う。
・教職員の必要感に沿った研修を行うことで、指導力向上を目指す。
○メンターチームを中心に、経験の浅い教員のニーズに合った研修を行う。
下半期
○校内授業研究会を、全教員一人一回行う。
単元、題材、主題を通して、「本気」で思考する(させる)場面を考える。思いや考えを表現するためには、根拠となる思いや考えをもつことを大切に、という視点で研究を行う。以下の点について協議会にて授業提案をもとに協議する。
①思考する場面が適切であったか。
②授業を通しての子どもの変容は見られたか。
・「つながり」を意識した研究となるように、協議会のメンバーを固定しないで行う。
・部会に分かれて意見交換をしながら、活発な協議を行うことができるようにする。
○講師を招いた理論研修を行う。
・教職員の必要感に沿った研修を行うことで、指導力向上を目指す。
○メンターチームを中心に、経験の浅い教員でも気軽に相談できる関係づくりを目指し研修を続ける。
○一年間通って行ってきた研究の成果をまとめ、次年度に向けて研究の方向性を決める。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (①正しいことを正しいといえる「勇気」をもって行動できるよう、横浜プログラムに取り組む。②道徳的心情を養い、他者との違いやよさ、個性を認め合えるような授業を行う。③相手の目を見てあいさつする大切さを伝えるとともに、自らの思いを伝え合う人間関係の育成に向け、たて割り活動やあいさつ運動を実施していく。)

豊かな心に関わる本校の状況

○指示されたことは素直に受け入れる姿勢やそれを成し遂げようとする力をもっている。自分や共通の価値に基づいて自ら考え判断し、行動するまでには至っていない。
・道徳科を要として、学校の教育活動全体を通して行う道徳活動を充実させ、指導内容を明確化し振り返りを行うことで実践的な態度を育成している。
○「自分にはよいところがある」という問いに対して「ない」「分からない。」と答える子どもが少なくない。自分は大切にされている、自分は必要とされているという自己有用感とともに高めていく必要がある。
・子どもの社会的スキル「横浜プログラム」の活用や、「Y-Pアセスメント」による支援検討会を積極的に取り入れることで、自尊感情を高めたり、他者を受け入れることのできる資質を高めたりしている。
○様々な理由で登校支援が必要な子どもが複数学年にいる。
・いじめは絶対に許さないという教職員の姿勢を子どもたちに朝会や掲示を通しても伝えたり、登校支援の必要な子どもに対する粘り強い姿勢を示したりすることで、安心して登校できる環境づくりを行っている。
○根深い大きな子ども同士のトラブルはないが、「ついでか」「ふざけて」といった軽い気持ちから友達を傷つける行為を行ってしまう様子が見られる。

今年度の目標

自分のよさを生かし、進んで他者とかかわり合う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○「Y-Pアセスメント」と連携させて「横浜プログラム」に取り組み、他者を受け入れながら関わるスキルを高めていく。そして、自分の個性に気付き、肯定的に受け止めようとする心情を養っていく。
○キャリアパスポートや縦割り活動を活用し、学年に応じて自分の役割を果たす経験を重ねていくことで、自己有用感や自己肯定感を高めていけるようにする。
○学習の中でめあてを明確にすることで、達成感を感じられるようにする。
○児童会の活動を生かして「あいさつ運動」に取り組み、あいさつの大切さをとらえらるとともに、自分から思いを伝え、関わっていかうとする態度を養う。
○夏休みに教職員への研修を行い、人権意識を高めたり、子どもの理解を深めたりする。
○夏休み明けには二者面談を行い、安心して登校できる環境を整える。また、必要に応じてアンケートや面談を実施することで人間関係の育成と指導の充実を図る。
○誰もが、安心して過ごせる教室整備を目指し、ユニバーサルデザインの教室環境づくり、授業づくりをさらに進める。
下半期
○「Y-Pアセスメント」と連携させて「横浜プログラム」に取り組み、他者を受け入れながら関わるスキルを高めていく。他者とかかわり、比べる中で自分の個性に気付き、肯定的に受け止めようとする心情を養っていく。
○キャリアパスポートや縦割り活動を活用し、学年に応じて自分の役割を果たす経験を重ねていくことで、自己有用感や自己肯定感を高めていけるようにする。
○人権週間で「横浜プログラム」をプログラムを活用し、個性の伸長や自己肯定感の向上を図る。
○キャリアパスポートや縦割り活動の振り返りを行い、自分の成長を実感できるようにし、自己肯定感を高め、来年度の自分の姿のイメージや目標をもてるようにする。
○必要な子どもには特別支援計画を作成し、保護者とも共有することで、確実な支援を行えるようにする。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①状況に応じて感染症対策や熱中症対策を行いながら、子どもが自分に合った「元気」を引き出す取組を実施する。②なわとび運動や大会を通して体力向上を目指す。③食育を含めた「基本的な生活リズム」の重要性について、保健だよりや懇談会等を活用し、子ども・保護者への周知を図る。)

健やかな体に関わる本校の状況

○体の健康
・体を動かすことが好きな子どもが多く、積極的に外遊びをする姿が見られる。
・縄跳び運動の成果で、体力や縄跳びの技能が向上した。
・睡眠時間が横浜市平均に比べて少ない。
・ボールを投げたり、バットで打ったりする基本動作などができていない子どもも多い。
・運動不足の子ども、肥満傾向にある子どもが増加した。
・新体力テストの結果では、「全身持久力」「筋持久力」について市平均・全国平均を下回った。コロナ禍で体を動かす機会が減ってしまったことが原因だと考えられる。
・視力検査の結果、視力低下傾向がみられ、視力0.7以下の割合が全国平均を大きく上回った。
・給食の残食率が比較的多い。特に野菜や魚、果物などが多く残る傾向にあり、偏食傾向にある子どもが多いと考えられる。
・保健室の利用状況を見ると、朝食の欠食や単食、不規則な就寝時刻等、生活リズムが崩れている子どもが多い。
○心の健康
・明るく素直で、何事にも頑張っており取り組もうとする子どもが多い。
・一方で、不安傾向が強い子どもが増加している。

今年度の目標

自らの心と体の「健康」に興味をもち、考える子どもを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・家庭科学習、給食委員会活動等を通して、自身の食生活に興味をもち欠食せず三食食べることを、バランスよく食べることに気付けるようにする。
・コロナ禍の実態に即し、食育計画と食育目標の見直しを行う。
・保健だより等で生活リズムを整えることの大切さや心の健康についての知識を周知する。
・体育の授業の中で、45分の授業デザインを行い、運動の実態に考慮しつつ、運動量の確保を意識した授業を行う。
・体育の授業で、6年間のカリキュラムを確認し、様々な領域の運動を経験できるようにする。
・委員会活動を通して、なわとびの技や練習の仕方を紹介し、なわとび運動に興味をもつことができるようにする。
・健康観察アプリを活用した健康観察、手洗い・マスク着用・ハンカチ持参の感染予防対策を行う。状況に応じて、マスクを外すなどの熱中症対策も同時に行う。
・元気委員会(集会の形)で「元気をチャージする方法をたくさん見つけよう」をテーマに取り組み、自らの心と体の元気について、自分で考えられる子どもを育てる。
下半期
・年間の取組を振り返り、改善した点やよい姿を認め、子どもに返していくことで自己肯定感を高めたり、達成感を味わったりできるようにする。
・体育の授業の中で、学習計画や場の設定などを話し合うことで、自分から運動について考える機会をもつ。
・体育の授業の中で、運動のよさを味わうことで心と体の関係に気付いたり、考えたりできるようにする。
・委員会活動を通して、なわとび運動を盛り上げる取組を行い、積極的になわとび運動に取り組むことができるようにする。
・健康観察アプリを活用した健康観察、手洗い・マスク着用・ハンカチ持参の感染予防対策を行う。